

# 庁議の概要

開催日 平成20年3月24日（月）

## ◎項 目

- 1 平成20年度人事定期異動等について【総務部】
- 2 その他

## ◎内 容

### 1 平成20年度人事定期異動等について【総務部】

総務部より、平成20年度4月1日付人事異動の概要を配布のうえ概要説明があり、意見交換を行った。

#### 【概要説明】

- ・ 今回の異動の規模は知事部局で1,349人。昨年の1,531人と比べると182人少なくなっており、平成に入ってから是最も少ない人数である。あまり大きく組織の再編をしてないということで少なくなっている。
- ・ 新規採用者が今年は46名ということで、昨年度に比べて19人増えている。純粋な新規採用者は36人で、これも昨年に比べると16人増えている。
- ・ 退職者数は166人で、昨年度が146人だったので20人増えている。定年前の退職者の方が40名。去年は41名だったので、去年と今年は同じくらいで、トータルとして定年退職者が増えたということになる。
- ・ 知事部局の組織数は増減なしの13のままだが、本庁の課室が文化環境部などで再編や新設によって、全体で89課室。昨年と比べると8課室減っている。出先機関は、身障者リハビリテーションセンターが廃止になり民間委託になったので、1つ減っている。
- ・ ポスト数の増減は、職員定数のスリム化に合わせて、計画的に削減を進めている。昨年、大幅な見直しを行ったので、今回削減は全体でマイナス6と。昨年のマイナス46よりも小幅なものになっている。
- ・ 知事部局の職員数はこの4月1日で3,558人。昨年度に比べて134人の減となっている。過去に職員数が最も多かったのは昭和55年で、4,737人いた。1,179人減っている。
- ・ 女性職員の登用にも気を配った。また本庁と出先機関の人事交流にも気を配っている。
- ・ 職員全体の年齢構成とかモチベーションなどを考えて、組織をスリム化する中でもポストをできるだけ減らさないという努力はしている。

#### 【主な意見】

##### 〔知事〕

- ・ 今回退職される方につきましては、本当に長年にわたって県政のために、県民のためにお仕事をされまして誠に御疲れさまでございました。長年のご労苦に心より敬意を表させていただきたいと思います。退職をされましても、気軽にまた県庁にお越しいただきまして、また知事室にも気軽にお越しいただきたいと思っております。お越しいただいて、いろいろとご経験に基づいてアドバイスなどをいただければというふうに思っております。
- ・ 庁議メンバーの人事異動のことで、一つ申し上げたい。今回、総務部長と土木部長について、国の省庁から割愛人事という形で人を募ることとした。職員が全部庁内登用主義であるとか、必ずこのポストは外部から連れてくるとか、そういう原理原則などという形で定めるつもりは全くない。また、人事というものはそういうものではないと私は思っている。時々課題に応じて、時々部局から必要と思われる方に就いてもらうということが基本、いわば適材適所ということであろうかと思っている。

- ・ 今年については、国における地方分権の推進であるとか、さらには財政の不均衡の調整であるとか、定住圏構想であるとか、新たな大きな流れができてきている中で、やはり国全体の動向というものをしっかり把握した上であたっていく部分というのが非常に大きいのではないかという判断から、総務省から総務部長に来てもらった。また、土木部長についても同様である。このところについては、来年は来年の考えがあるということで、その点は理解をもらいたいと考えている。
- ・ 私としては、この庁議メンバー、ベストの体制が新しい20年度においてそろったと考えているので、引き続きの努力をお願いしたいと考えている。
- ・ 20年度は、高知県にとって極めて重要な年ではないかと考えている。高校生の県外就職率が、去年48%だったものが、今年は55%に拡大をしている。去年よりも7%も増えたわけであり、正直なところ、これは異常な事態である。県内に半分の子どもが残らない。さらにその動きが1割増しくらいの形で加速をしているという状況である。こういう状況が今後、例えば1年、2年も3年も続いたときに、果たして県勢の衰えというのはどうなるであろうかと。後戻りできないほど衰えてしまうのではないかという危機感を私は強く持っている。そのためにも、この流れをいつか止めなければならない。そして反転させなければならない。正直なところ、この点、待ったなしの課題だという認識があり、各部、各部、高知県の県勢浮揚のために、そして安全安心の確保のために大きな課題を抱えていると思うが、高知県の県勢を建て直すとしたら、今しかないのだという危機感を持って頑張ってもらいたい。

#### 〔副知事〕

- ・ 道路特定財源の暫定税率の問題が3月31日をもって期限切れになる。県民生活に及ぼす影響、あるいは地方財政、高知県財政、市町村財政に及ぼす影響というのはとてつもなく大きいものがある。関係の部局長においては、3月31日まで国の動きがどうなるのか。それまでにどういう対応をしかねばならないのか。道路財源が少なくなるということだけでは済まない。いろんな問題がある。歳入面での調整の問題もあるし、納税者の問題もある。さまざまな問題があるので、その辺はきちっとどういう対処するのかというのがないと、内々の対応というのが即座に講じられるような内部の統制というものを各部局長においてやってもらいたいと思う。
- ・ 明日、モードアバンセに関する裁判所での和解ということになるかもしれないという状況にある。そういう段階になったときには、部局長会議を緊急に開催させてもらい、幹部職員としてどう対処していくのか。共に痛みをどう分かち合いながらどうするのかとかいう、具体的な話をさせてもらいたいと思う。

## 2 その他

- ・ 観光部より、香南市で開催された女子プロゴルフトーナメントのPRGR レディースカップについての報告があった。